

<30周年記念セッション>

30周年記念セッション：都市社会学——軌跡と展望——

本学会は1982年に設立され、今年は30周年という節目の年に当たります。これまでの都市社会学の営為を振り返ることによって到達点と課題を明らかにし、また今後の研究の方向を探るべく、このセッションでは都市社会学をリードしてきた方々に、都市社会学の「これまで」の軌跡と、それをふまえて「これから」の展望を語っていただきます。

この30年の間、マクロ社会の変化はめざましく、グローバル化、情報化、バブル経済とその崩壊、長期不況、格差拡大、非正規労働や貧困問題、少子高齢化等々の現象が生じました。ダイナミックに変動する都市社会の諸相をとらえるべく、都市社会学では理論的、実証的研究が積み上げられてきました。

そのような都市社会学の諸領域のなかから、今回は「構造と変動」「ネットワーク」「エスニシティ」の3つの領域を選び、それぞれの報告者の方に、専門領域における成果と課題、今後の方向性などについて述べていただき、フロアとの討論につなげてゆく予定です。

〈報告者〉（敬称略） 町村敬志「都市社会の構造と変動」
森岡清志「ネットワーク論と都市社会学」
谷 富夫「都市とエスニシティ」

（企画委員 武田尚子）

<シンポジウム>

現代都市のリスクとグローバル化

今日、社会学の視点から都市生活を検討するとき、リスクおよびその管理は欠くことができない課題となっている。2011年3月には東日本大震災が発生し、東北地方を中心に大きな被害を及ぼした。また、アジアをみても夏にはタイ王国で洪水が発生し、その後、長期にわたってタイ国内外の社会経済に多大な被害、影響をもたらした。製造業を中心に日本国内にも大きな影響を及ぼし、日本の産業構造が無数のグローバルなネットワーク構造のなかで成立していることを改めて知らしめた。

2011年に実施した日本都市社会学学会テーマ部会では「犯罪・災害リスクとコミュニティ」を主な論点とし、大震災後半年というタイミングもあって震災・原発問題も含んだ議論が行われた。今回のシンポジウムでは、「グローバル化」という観点から現代都市におけるリスク、リスク管理をめぐる現状とそこでの課題について社会学内外の知見を得ながら検討を行いたい。

（企画委員 山本薫子）

5. 編集委員会報告

12月10日に第2回編集委員会を開催し、2012年9月発行の『日本都市社会学学会年報』第30号の編集方針などを検討しました。現在、30号の編集作業が進行中です。9月の大会の折に参加者にはお渡しできるよう、鋭意、編集作業を進めています。

（常任理事・編集委員長 江上 渉）

6. 『日本都市社会学学会年報』31号（2013年発行）自由投稿論文・研究ノート募集について

編集委員会では、『日本都市社会学学会年報』31号（2013年発行）に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』30号（2012年9月発行）に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2012年11月30日（消印有効）まで

に、下記の編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(常任理事・編集委員長 江上 渉)

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学社会学部 江上渉研究室内

日本都市社会学会編集委員会事務局

電話：03-3985-4714(直通)

FAX：03-3985-2833(社会学部受付)

E-mail：egami@rikkyo.ac.jp

7. 震災関係作業部会報告

去る3月5～6日、盛岡市において、地域社会学会・日本社会学会と本学会による社会学3学会合同研究・交流集会「地震・津波・原発災害から1年：被災地復興の現状と課題を考える」が開催されました。一日目は雪の降るなか、盛岡からバスで三陸沿岸の被災地を回るエクスカーションが行われ(44名参加)、釜石市・大槌町・山田町、宮古市を訪ねました。二日目は盛岡駅近くの岩手県立大のアイーナキャンパスで、「津波被災地の現状」「原発事故と非難の現状」の二つの部会とシンポジウム「津波被災地の復興の現在と直面する課題」(シンポジウムは一般公開)が行われました(参加者70名)。

短い準備期間にもかかわらず、3学会の各会長を含む多くの研究者が参加して下さい、ともに被災地の現状にふれ、3学会の会員間で研究交流を行うことが出来たことは、今後の学会間交流の試行としても一定の意義があったのではないかと考えております。今後は第二弾の研究・交流集会の開催可能性を検討することになっています。引き続き、多くの会員に参加していただければ幸いです。

(震災関係作業部会事務局長 渡戸一郎)

8. 国際交流委員会報告

2011年11月11～12日、韓国・釜山の東亜大学校で韓国地域社会学会大会が開催され、同学会との交流協定に基づき、浅川達人会員が「学生ボランティアによる東日本大震災からの復興支援活動 - 岩手県大槌町吉里吉里地区を事例として」と題して報告しました。大会には谷富夫会長、町村敬志前会長も出席し交流を深めました。2012年度は、韓国地域社会学会会員にシンポジウムでご報告いただくよう準備を進めております。なお、この交流協定は来年度に更新時期を迎えます。今後の交流方針ならびに運用内規の整備等について国際交流委員会・理事会で検討して参ります。

(国際交流委員長 稲月 正)

9. 首都大学東京「グローバル化のもとでの都市と国家の再編成」講演会のご案内

首都大学東京の社会学分野では、学内の研究費を活用して、昨年に引き続き、表記のテーマにもとづく国際講演会を開催します。今年度はハーバード大学のニール・ブレナー氏を招き、新自由主義のもとでの国家のリスキューリングと国際比較の可能性について検討できればと考えています。地方分権、都市、国家のリスキューリングなどに関心のある方々の参加をお待ちしています。また、昨年度日本における都市と国家の再編成に関する研究者間の交流と支援の場として結成した研究会(TMU リスキューリング研究会)にも、この機会にご参加いただければ

幸いです。講演会の予定については、以下の通りです。TMU リスケーリング研究会にご関心のある方は、玉野 (tamano@k.email.ne.jp) までメールでご連絡ください。

<首都大学東京講演会>

新自由主義化する資本主義の時代における国家のリスケーリング

——未解決の課題と比較の視点——

State rescaling in the age of neoliberalizing capitalism: open questions and comparative perspectives

ハーバード大学 ニール・ブレナー (Harvard University Neil Brenner)

日時：5月14日(月) 10:00~13:00

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館 大会議室

http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/map.html

通訳あり、参加無料

なお、ホームページ (<http://tmusociology.blog134.fc2.com/blog-entry-326.html>) も併せてご参照ください。

会員異動

新入会員 (2012年3月2日理事会承認)

<関東地区>

大野光子 立教学院大学大学院

山田知子 大正大学

<中部・関西地区>

大谷かがり 中部大学

<北海道東北>

森下義丞 北海道大学大学院 (2012年度入会)

退会

<関東地区>

伊東秀明

藤井多希子

<中部・関西地区>

高智富美

傳琳琳

<中国・四国・九州地区>

西英子

学会事務局より

◆会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。まだ学会費を納入されていない会員の方は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。また、2011年度会費を納入していただきました会員の皆様は2012年度(2012年4月1日~2013年3月31日)の会費も、できるだけ早めに納入くださいますようお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関(一部を除く)と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきますので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合は次の通りです。

銀行名 ゆうちょ銀行

預金種類 当座

店番 019

店名 (カナ) 〇一九店 (ゼロイチキューウ店)

口座番号 0703976

受取人名 ニホントシシャカイガツカイ

◆事務局の住所表記が変更になりました。

長久手町の市制移行に伴い、事務局住所の表記が変更になりました。ご確認よろしくお願ひします。

〒480-1198

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3

愛知県立大学教育福祉学部 山本かほり研究室内

健興社会